

平成16年度市川市文化振興財団主催公演

市川市市制70周年記念

オーケストラと歌おう

春のうたごえ2005

第5回

市川・第九

Conductor
岩村 力
Chikara Iwamura

力

Chikara Iwamura

Symphonie No.9 Op.125

An DIE FREUDE

Baritone
大久保光哉
Masaya Ohkubo

大久保光哉

Masaya Ohkubo

Alto
林美智子
Michiko Hayashi

林美智子

Michiko Hayashi

Soprano
平井香織
Kaori Hirai

平井香織

Kaori Hirai

Tenor
小貫岩夫
Iwao Onuki

小貫岩夫

Iwao Onuki

Orchestra
市川交響楽団

市川交響楽団

Chorus
第5回市川第九合唱団

第5回市川第九合唱団

2005 2/20 (sun)

市川市文化会館大ホール

13:30開場 / 14:00開演

主催 / 『市川・第九』実行委員会【市川市文化振興財団・市川市合唱連盟・市川交響楽団協会】 / 市川市
助成 / 財団法人地域創造
後援 / NHK千葉放送局・ちばテレビ
協賛 / 山崎製パン(株)



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

オーケストラと歌おう春のうたごえ2005

第5回 市川第九

PROGRAM

Richard Wagner

リヒャルト・ワーグナー

die meistersinger von nurunberug

楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー (名歌手)」より
第1幕 前奏曲

休憩

Ludwig van Beethoven

ルードヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェン

Symphonie No.9 Op.125
An die FREUDE

交響曲第九番二短調 作品125 (合唱付)

Profile

Chikara Swamura

指揮者／岩村 力



NHK交響楽団アシスタントコンダクター。早稲田大学理工学部電子通信学科、および桐朋学園大学音楽学部演奏学科を卒業。さらに同大学オーケストラ研究生として研鑽を積む。黒岩英臣、飯守泰次郎、小沢征爾、秋山和慶、高階正光、クラリネットを古沢裕治、二宮和子の各氏に師事。

- ・ 第15回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクール（スイス）指揮部門優勝、マスタープレイヤーズ大賞受賞。
- ・ 第1回マリオ・グゼッラ国際指揮者コンクール（イタリア）第2位、オーケストラ内の投票では過半数の支持を得てオーケストラ特別賞を受賞。
- ・ 第8回フィレンチェク記念国際指揮者コンクール（ハンガリー）入賞。
- ・ 第3回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール（イタリア）第3位。

1995年・1997年には、フェラーラ市立歌劇場の招待を受け「セヴィリアの理髪師」「ドン・ジョヴァンニ」の上演に際してクラウディオ・アバド氏のもとで研鑽を積む。また、シャルル・デュトワ、チョン・ミョンフン、ジャン・フルネ、イヴァン・フィッシャーなどのアシスタントを数多くつとめた。現在はイタリアと日本に活動の拠点をおき、これまでに、ハンガリー国立交響楽団、デブレツェン交響楽団（ハンガリー）、サヴァリア交響楽団（ハンガリー）、マルケ・フィルハーモニー管弦楽団（イタリア）、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、東京混声合唱団、東京佼成ウインドオーケストラなどの内外のオーケストラを指揮。ヨーロッパ諸国、および日本国内各地で演奏し高い評価を得ている。

1996年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の要請により同楽団日本公演（クラウディオ・アバド指揮、マーラー／交響曲第2番「復活」）副指揮者をつとめ、1999年には『別府アルゲリッチ音楽祭』において、マルタ・アルゲリッチ、ミッシェル・マイスキー、イヴリー・ギトリスらと共演し好評を博した。また同年より、ミラノ・スカラ座首席奏者達との共同プロデュース演奏会（指揮・企画）を始めるなど、世界のトップアーティスト達から誠実な人柄と音楽性に厚い信頼が寄せられている。

2001年以降は、ザグレブ国際現代音楽祭（クロアチア）、ザグレブ・フィルハーモニー交響楽団定期演奏会、パリー交響楽団特別演奏会（イタリア）への出演をはたすなど、国際的に活躍の場を広げることとなる。2003年9月には、NHK交響楽団B定期演奏会に登場し、大きな成功をおさめた。オペラ・合唱・宗教音楽を含め、今後もエネルギーに取組む活動が大いに注目されている。

なお、来月3月27日（日）NHK交響楽団第16回市川公演「よくばりコンサート～遊び・踊り・いつくしみ～」をテーマに指揮。

Kaori Hirai

ソプラノ／平井香織



国立音楽大学卒業。

同大学院リートコース（ドイツ歌曲専攻）修了。

二期会オペラスタジオ修了。修了時に優秀賞受賞。

第4回富山県新人演奏会出演。北日本新聞奨励賞受賞。

東京文化会館推薦音楽会オーディション合格。

莊智世恵、依田喜美子、南條年章の諸氏に師事。

『奥様女中』のセルピーナでオペラデビュー。以後

『フィガロの結婚』のスザンナ、『魔笛』の夜の女王、

『小さな煙突そうじ屋さん』（ブリテン）のジョン、『ヴェニスに死す』イチゴ売り、『トスカ』の羊飼いの少年、『カルメン』ミカエラ、『夕鶴』のつう、『ヘンゼルとグレーテル』の露の精、『サウンド・オブ・ミュージック』のリーズル等を演じる。コンサートにおいては、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「ネルソンミサ」、ベートーヴェン「第九」、コダーイ「ミサ・ブレヴィス」、フォーレ「レクイエム」、プーランク「グローリア」、メンデルスゾーン「詩編42」等のソリストとして活躍している。近年は2002年よりの新国立劇場『ニーベルングの指環』に出演、5月同公演『トスカ』、9月新国立劇場小劇場オペラ『なりゆき泥棒』に出演。その他、小澤征爾指揮「ファウストの劫罰」（ベルリオーズ）、井上道義指揮「ミサ」（バーンスタイン）、大野和士指揮「3部作ヌシュ・ヌシ」（ヒンデミット）、現田茂夫指揮「ペール・ギュント」（グリーク）、岩城宏之指揮「アルテンベルク歌曲集」（ベルク）、東フィル「ドン・カルロ」（演奏会形式）にテバルドで出演。声質はソプラノ・リリコ・レジェーロであるが、コロラトゥーラの華やかさと共に、フランス・オペラのリリックな役柄などに相応しい柔らかな色彩を兼ね備えている。レパートリーは古典から現代曲まで幅広く、特にベッリーニの叙情的な役柄では独特の雰囲気を出す音楽の持ち主である。日本初演作品の出演も多い。

97年にはサントリーホール・小ホールにてリサイタルを開催し、好評を得る。

二期会会員



Michiko Hayashi

アルト／林美智子

東京音楽大学卒業。桐朋学園大学研究科修了。

二期会オペラスタジオ修了。新国立劇場オペラ研修所第1期修了。

第42回全日本学生音楽コンクール（高校の部）全国大会第1位入賞。

第46回全日本学生音楽コンクール（大学・一般の部）東京大会第3位入賞。

在学中にイタリア、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院に留学。

2002年3月より一年間文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンへ留学。

03年12月アテネで開催された「国際ミトロポーロス声楽コンクール2003」で最高位入賞（順位なし）し、入賞者記念コンサートと表彰式がギリシャ国内でテレビ放映された。これによりアテネ五輪の文化事業の一環として05年オリンピア野外劇場で上演予定のオペラ『エウメニデス』（世界初演）への出演が決まった。第5回ホテルオークラ音楽賞を受賞。新国立劇場オペラ研修所発表公演ではマローザ『秘密の結婚』のフィダルマ役、モーツァルト『コシ・ファン・トゥッテ』のドラベッラ役等に出演。

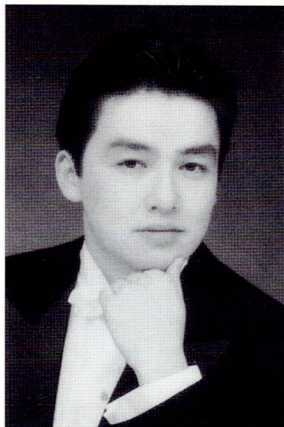
2001年には、研修所修了公演・ベッリーニ『カプレッティ家とモンテッキ家』のロメオ役を演じ喝采を浴びたほか、文化庁芸術総合体験事業『小さなエントツそうじ屋さん』、中村透作曲オペラ『日光』（初演）、新国立劇場公演・ロッセリーニ『花言葉』の叔母役などに出演。

2002年新国立劇場公演『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル役、二期会創立50周年記念公演『フィガロの結婚』（宮本亜門演出）ケルビーノ役で好評を博した。また2003年7月には同記念公演『ばらの騎士』にオクタヴィアン役で出演し、絶賛された。また同年11月には日生劇場開場40周年記念特別公演にてベルク『ルル』（3幕版／日本初演）に出演し、難役を見事に演じ切った。最近ではセンセーショナルな舞台が話題を呼んだ宮本亜門演出による『ドン・ジョヴァンニ』にツェルリーナ役で出演した。またコンサートでは、グレツキ「悲歌のシンフォニー」のソリストとして、カジミエシ・コルド指揮ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団と共演したほか、「第九」「メサイア」「レクイエム」「戴冠ミサ曲」「C minor ミサ」「マニフィカート」「エア」など数多くの独唱をつとめる。2000年には東京都交響楽団「真夏の夜の夢」（G.ベルティーニ指揮）のソリストに抜擢され出演、また新星日響定期ドビュッシー『ペレアスとメリザンド』＜演奏会形式＞にイニョルド役で出演し、鮮烈な印象を残した。2001年東京シティフィル定期でマーラー「交響曲第4番」、山形交響楽団定期でベルリオーズ「夏の夜」とファリャ「三角帽子」を演奏。本年1月にはフィリアホールにて初ソロリサイタルを開催し、その魅力を余すところ無く発揮した。21世紀の声楽界を担うメゾソプラノとして、今後の活躍にますます期待が寄せられている。

現在、ローム ミュージック ファンデーションの奨学金を得て、ミュンヘンにて研鑽を重ねている。

二期会会員

林美智子 ホームページ <http://www2s.biglobe.ne.jp/~mittyan/>



Iwao Onuki

テノール／小貫岩夫

同志社大学を経て、大阪音楽大学首席卒業。
文化庁オペラ研修所第11期修了。

1994年第13回飯塚新人音楽コンクール声楽部門大賞
(文部大臣奨励賞)。

第36回日伊声楽コンクール第2位入賞。

第5回コンセール・マロニエ21声楽部門最優秀賞受賞。

読売新人演奏会、ABC新人コンサート、大阪音楽大学演奏会に出演。

1998年より文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。林誠、疋田生次郎、松本美和子、V. テッラノーヴァ、R. ネーグリ、E. ヘフリガーの各氏に師事。音大在学中の1995年、堺シティオペラ『魔笛』タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムらの世界的歌手と共演し、デビュー。この成功により、ドイツ・ケムニッツ市立歌劇場より招聘を受け、1996年同役で出演し、地元紙より好評を得る。2000年、4月R. シュトラウス『サロメ』(若杉弘指揮)で新国立劇場デビューを飾り、5月J. ベーリ『エウリディーチェ』(若杉弘指揮)アミンタ、7月『コシ・ファン・トゥッテ』(現田茂夫指揮)、8月東フィル「オテロ」(大野和士指揮/演奏会形式)、その他『セヴィリアの理髪師』のアルマヴィーヴァ伯爵、『ウィンザーの陽気な女房達』フェントン、『ロング・クリスマス・ディナー』チャールズ等に出演する他、『リゴレット』マントヴァ公爵、『愛の妙薬』ネモリーノ等をレパートリーとしている。2001年2月新国・二期会共催公演『リゴレット』、7月二期会公演『ファルスタッフ』、2002年1月二期会・新国共催公演『忠臣蔵』、7月二期会公演『ニュルンベルクのマイスタージンガー』難役ダーヴィット、11月二期会『椿姫』に出演。04年1月新国・二期会共催公演『鳴神』では白雲坊役を好演。コンサートでは、留学中ミラノ・ジュネーヴ(ヴィクトリア・ホール)等でのコンサートに出演する他、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイヤ」、ヴェルディ「レクイエム」、ロッシニ「小荘厳ミサ」などのソリストとして活躍している。二期会会員

Mitsuya Ohkubo

バリトン／大久保光哉

慶應義塾大学法学部卒業。東京芸術大学大学院博士課程修了。
文化庁オペラ研修所修了。

ヤン・エイロン、イワ・セーレンソン、平野忠彦、長内 勲の
両氏に師事。

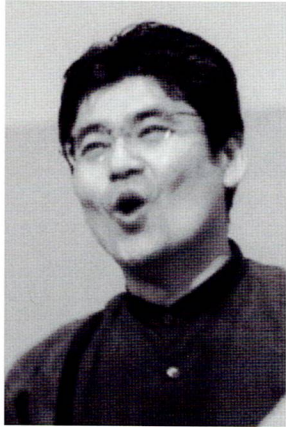
平成9年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてスウェーデンへ留学。

札幌新人演奏会、日演連新人演奏会(札幌交響楽団、末廣誠指揮)

第7回世界オペラ歌唱コンクール「新しい声'97」アジア予選代表としてドイツ本選に出場。

『セヴィリアの理髪師』バルトロでオペラデビューした後、新国立劇場オープニング公演『TAKE RU・建』稲置、新国立劇場・二期会共催公演『罪と罰』主、『リゴレット』スバラフチーレ、チェブラーノ『トロヴァトーレ』フェランド、『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、『祝い歌が流れる夜に』金沢公一郎・植村正造、『奥様女中』ウベルト、『ドン・ジョヴァンニ』レポレロ、『フィガロの結婚』バルトロ、『ランメンモールのルチア』ライモンド、『ラ・ボエーム』マルチェッロ・コッリーネ、『蝶々夫人』シャープレスなどに出演している。2000年4月新国立劇場・二期会共催公演『サロメ』に出演。2002年5月新国立劇場公演『サロメ』に出演。2003年11月日生劇場開場40周年記念二期会共催オペラ『ルル』出演。コンサートでは、芸大定期ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」「ハ長調ミサ」、シューベルト「エリア」をはじめ、モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」、プッチーニ「グローリア・ミサ」、ベートーヴェン「第九」「ハ長調ミサ」、ベルリオーズ「ファウストの劫罰」ブランデル(ジャン・フルネ指揮 東京都交響楽団)などのソロを務めている。ほかに読売日本交響楽団ネッロ・サンティ指揮『椿姫』、ゲルト・アルブレヒト指揮『ヴォツェック』、NHK交響楽団準・メルクル指揮『ヴィーナスとアドニス』(ヘンツェ作曲)、東フィルオペラコンチェルトアンテ『サロメ』『遙かなる響き』、東京国際フォーラム開館記念公演「日中オペラガラコンサート」、1997年、1999年東京でのソロリサイタル、また1998年スウェーデン・レークサンド音楽祭では、スウェーデン歌曲を演奏し、好評を得た。1999年文化庁主催による「明日を担う音楽家による特別演奏会」、NHK「FMリサイタル」に出演するほか北欧の声楽作品の研究発表を行っている。役柄を的確に演じ分けることの出来る音楽性とテクニックを持つ期待のバリトンである。二期会会員





Yasushige Tanaka

合唱指揮／田中安茂

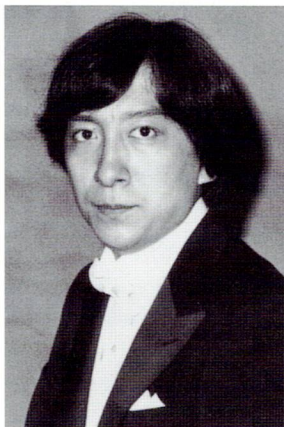
1981年千葉大学教育学部音楽科卒業。市川市八幡小学校、同南行徳中学校、同塩浜中学校で教鞭をとり、現在市川市南行徳中学校に勤務。声楽を山本敬、宮野モモ子、合唱指揮法を栗山文昭、指揮法を高階正光の各氏に師事。NHK学校音楽コンクール全国大会金賞、全日本合唱コンクール中学校部門全国大会で3年連続金賞受賞するなど合唱指揮者としての地位を築いた。また、近年は各地の音楽講習会やヤングコーラスのレコーディングなど幅広い活動を行っている。現在、合唱団ノア、市川男声合唱団、パーチェカントーレ、各団の常任指揮者。千葉県合唱連盟理事。

Naomi Florino

**ソプラノ／堀野直美
(合唱指導)**



市川市出身。3才から母にピアノの手ほどきを受ける。国立音楽大学卒業。声楽を岩淵嘉瑩、嶺貞子、東敦子、西野薫、ボイス・トレーニングを錦織まりあに師事。大学卒業後、市川市立第七中学校、市川市立塩焼小学校にて教職を務め、主に合唱指導に力を注ぐ。1992年より声楽のソロ活動をはじめ、1996年国際芸術連盟主催第15回新人オーディションに合格。同連盟主催新人推薦コンサート、日本歌曲の夕べなどに出演。その他ジョイント・コンサート、サロンコンサート、スクール・コンサートなど多数出演。「コール・大柏」他、合唱団のボイストレーナーや合唱指導にも意欲的に取り組んでいる。また、2003年「クール・ルシャン第5回演奏会」にて、フォーレの「レクイエム」のソプラノソロを歌い、翌年2月、市川市文化会館大ホールで行われた「オーケストラと歌おう春のうたごえ2004」では、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」のソリストを務めた。現在、国府台女子学院小学部音楽専任講師。国際芸術連盟会員。



Hiroki Tomizawa

ピアノ／富澤裕貴

1988年、武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。90年、同大学大学院ピアノ専攻修了。91年より2001年までに4回のリサイタルを開催。同じく91年、地元市川にて室内オーケストラ“サム＝アデュー・チェンバー・プレイヤーズ”を結成し、モーツァルトの協奏曲をメインとしたコンサートに、93年からの同メンバーによる『室内楽の夕べ』も含め、20回に亘り演奏会を開催。97年には紀尾井ホールと当文化会館で、東京ベイシティ・フィルハーモニー管弦楽団にソリストとして招かれ、モーツァルトのコンチェルトを協演する。98年、第5回『市川ユネスコ音楽祭』で、参加メンバーと共に企画した全プログラムの声楽伴奏およびソロ・室内楽を演奏。合唱の方面では94年から2回、当文化会館でプロの室内混声合唱団の結成に参与し、指揮とピアノを兼ねて演奏。城北学園グリークラブ定期演奏会にたびたびピアニストとして招かれるほか、いくつかの女声コーラスで指導も手掛けるなど積極的に活動を続けている。当会館でも、これまで『春のうたごえ』『ブラームス／ドイツ・レクイエム』などに練習ピアニストとして参加。92年、品川にて堀 榮藏氏製作のフォルテピアノを使用した『古典派室内楽の夕べ』を皮切りに、これまで4回のコンサートを企画、開催したのに加え、97年より千葉市において『ベートーヴェン・ピアノソナタ全曲演奏会』を開始。全11回のシリーズのうち第5回目までをこなす。昨年の夏には当古楽器とモダン・ピアノで、同じプログラムによるモーツァルトとベートーヴェンを取りあげたリサイタルを2回に亘り開催。98年から2000年まで『～レスナー・大人のビギナーそしてチューナーのための～ピアノ入門講座』を全11回におよび開講、(静かな)反響を呼んだ。ピアノを金木 哲、青山繁子、堀江孝子、若尾輝子、伊東京子、C. ソアレス、M. M. シュタイン、R. スメンジャンカ、B. シキの諸氏、伴奏法をJ. ホラーク、U. アイゼンローア、K. リヒターの各氏に師事。市川市在住。

Tomoko Swanade

ピアノ／岩撫智子

東京音楽大学ピアノ演奏家コース、
コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース卒業。
二期会オペラスタジオピアニスト。
日本フィルハーモニー協会合唱団、市川男声、若葉女声、船橋混声
等の合唱団のピアニストを務める。
主に声楽、合唱の伴奏の他、音楽教材の録音活動も行っている。



第5回市川第九合唱団

『第5回市川第九合唱団』の公演のために一般公募により結成された合唱団。
団員総勢約300名で構成されている。練習に関しては、9月16日の結団式からここまで前期32回、後期21回のハードな練習を行ってきた。
合唱指導の田中安茂先生を中心に、ピアノに富澤裕貴先生、岩撫智子先生、ボイストレーナーと、ソプラノを中心とした合唱指導に堀野直美先生によって指導がなされ古畑功団長と酒井玄枝副団長を中心とし、各パート2名ずつの計8名のパートリーダーで練習が進められた。
第九の練習だけではなく、日本の歌曲やクリスマスソング等も練習し、合唱の素晴らしさを楽しみながら、各々の懸命な努力によって完成された合唱団である。
なお、田中安茂先生、堀野直美先生は本公演では合唱団の一員として参加している。

2/13(日) オーケストラ・合唱合同練習 (市川市文化会館大ホール)



市川交響楽団

本年創立54周年目を迎えるアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。
メンバーは現在100余名で年齢構成は20代から70代の幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦などと多彩。市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。

また、著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。

市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体が結成される市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに展開する積極的な活動には目を見張るものがある。

第5回市川第九合唱団

★団長 古畑 功

☆副団長 酒井玄枝

◆はパートリーダー

(五十音順)

Soprano

東 孝子	安達美千代	安齊 美篠	飯島 悦子	五十嵐園美	石黒 智美
市川美香子	岩佐 敦子	上田紀代美	浦井 和子	浦井夏々子	浦井 宏文
浦辺 泰子	榎本 邦子	江原 容子	遠藤 有紗	大木 邦子	大坂 正美
大杉 麗美	大淵 美子	大屋 和子	小田切幸子	◆片桐 民子	金子まち子
川口 優子	岸 真奈美	君島由紀子	草間 弓月	熊谷 利子	河内 絹代
小久保陽子	越本みどり	児玉 由美	小林マサ子	☆酒井 玄枝	佐々木和子
佐藤 華代	佐藤 里奈	清水 恵子	下田 雅代	白井 裕子	菅田 佳苗
鈴木 幸子	鈴木 恵子	須藤 紀子	高野 祐子	瀧口三津子	田中 和恵
田中健志郎	田中 豊子	田中みや子	田邊智佳子	玉井 理絵	玉田三重子
塚越寿美子	塚越 憲子	塚本 佳子	塚本 尚子	鶴岡 房江	徳永 千夏
内藤 恭子	中島 広子	中島 芽生	中西 智子	中西 双葉	中根 裕美
中前 日和	中村 明美	中村 佳子	中山由紀子	西津 裕子	野口 和子
橋本 実華	原口 沙希	福嶋 裕子	福満 憲子	古田 陽子	細谷登美子
本間 和子	本間まり子	眞壁 春菜	牧野真奈美	松本 芳枝	松丸 悦子
丸山美千代	溝辺菜々子	南 清子	村田 喜代	望月 佐季	森 美保
森保 素子	◆八木 理絵	矢島 陽子	八巻あゆ美	山岡 瑞季	山口 莉奈
山本 和子	吉井 正子	渡辺 久子			

Alto

相上 洋子	五十嵐敏子	池田 尚子	石井 和美	石橋里恵子	和泉 菜緒
伊藤 敏江	伊藤 智子	犬丸 良子	上田 好以	海野 真弓	上田 憲枝
宇野 法子	榎橋 リサ	遠藤すみ江	大谷 嘉子	大貫 永子	大野 茂子
大野 潤子	大村麻奈未	小野百登子	小野 結菜	香川 瑞代	柿崎 裕子
柿沼 幸子	梶原 蓉子	加藤 敏子	金井 恵子	亀澤 直子	川口 智未
川田千津子	菊池 時子	北川さかえ	貴内 克子	木村 華子	木村ひさ子
工藤真理子	久保 曜子	栗原みどり	河野 久子	小串 果歩	古作美津恵
◆斉藤 礼子	佐々木恵子	佐藤 玲子	渋谷 桂子	渋谷由美子	志保澤輝子
下村 和子	杉本恵津子	鈴木 春子	世川 岬子	関谷 史子	高橋久美子
高橋 信子	高橋みどり	竹内 有理	田崎二三江	田所美佐子	田中加代子
田中 昭子	田中 眞帆	谷内 洋子	谷口真由美	土屋 俊子	常松 公子
鶴田 靖子	鶴田 裕子	富永 郁子	富山 清子	内藤富士子	中尾 清子
南光 圭子					

南部三千世	新井野茂子	西川美佐緒	西脇 敦子	能勢 早苗	萩原 未来
橋谷 祐子	馬場 郁美	濱岡 良子	浜田千賀子	浜野 旭子	平野 恵子
平城 静代	堀木喜代子	堀越 芳子	本田 利子	馬島 啓子	増田 礼子
松原 未阿	松丸けさ子	松丸 正子	松本八重子	間中 美衣	三木絵里子
見谷 静枝	南迫 洋子	宮内 保子	宮崎 節子	宮下千恵子	宮本 桐生
向田 紀子	村内 潮	村瀬 恵子	望月 晴美	森井しおみ	矢田 信子
矢田 淑恵	山極 彩	山崎 陽子	山地 知子	山根みなみ	吉開 真代
吉開 有香	吉田 光子	吉田もと子	吉田 泰子	吉田 裕子	◆四本 尚子
米津 優美					

Tenor

秋山 卓宏	井関 裕義	磯田 直志	井出 一彦	内田 勉	大原 賢
大森 達也	柏木 申也	金田 輝夫	岸本 正義	櫛田 憲司	倉金 満蔵
桑原 磐男	兒井 敏雄	小中 規彰	小林 清	斎藤 明磨	斎藤 叶
佐藤 雄紀	◆澤田 淳一	篠田 要衛	莊田 雄彦	菅原 望	鈴木 司郎
島林 豪	丹内 寛	筒井 康光	中村 義信	藤岡 弦太	藤田 正樹
古橋 祐一	堀越 徹	水野 智章	◆南 隆夫	宮本 文利	村川 力三
村瀬 徹	矢島 匠	山口 昇	渡辺 大		

Bass

阿部 晃	伊藤 諒	上津 孝夫	内田 正	太田 勝哉	大滝 信義
大辻 康允	大橋 藤吉	岡田 秀樹	小川 勝嗣	加藤 龍大	加藤 芳明
川崎楨之助	神田 春彦	倉内 敏行	倉谷 徹二	黒川 和伸	河内 智男
小嶋 尚夫	小島 康延	小嶋 義視	佐藤 博	薄 広歩	鈴木 三夫
高橋 卓也	竹内 孝徳	田崎 幸雄	田中 浩一	谷口 四郎	常松 文彦
徳永 雅彦	◆中川 保典	中島 雄一	永田 貞雄	日光 俊勝	能勢 義政
林 忠男	樋口 進	平野 迪彦	◆古田 友弘	★古畑 功	古山 雄一
三村 修	宮尾 孝信	宮内 良司	渡辺 清	渡辺 隆雄	

市川第九実行委員

市川市文化振興財団	<能村 研三	中田 直喜	山口 裕之	篠原 隆司>
市川交響楽団協会	<横田 行雄	時田 雄>		
市川市合唱連盟	<近藤 明子	酒井 玄枝>		

協力団体

東京芸術大学	<黒川 和伸	藤岡 弦太	宮本 文利	渡辺 大>
--------	--------	-------	-------	-------

第5回市川第九（市川交響楽団）

●コンサートマスター	立田 祥子			
○第一ヴァイオリン	石本 恵理 大村 光子 鈴木 薫	上田佳津子 笠松 秀臣 根守 弘和	大野 道夫 河原 麻子 秦 一宜	大橋 一郎 小林 吉範 吉岡 一郎
●第二ヴァイオリン	伊藤 大祐 鎌田 真貴 永田 匡 山田 優子	上原 剛介 亀井 玲子 深沢 武夫	上原佐貴絵 佐分利幸江 松橋 冴子	奥本二美恵 富田八江子 溝田 範子
○ヴィオラ	浅野さとみ 島 信之 若林 繁	内田 綾美 奈良林弘子 渡部 玲子	大橋かおる 星 乗昭	小名 康仁 横田 行雄
●チェロ	岩田 理人 小松 高明 野中 能久	大塚 啓子 瀬川 清 日澤 優	大村 賢治 田頭 扶 福原 耕二	倉沢 倫子 中村 公一 山口 勝規
○コントラバス	石橋 俊一 小西 祐作	上村 啓介 小林 真弓	菊池 克彦 星野 紫穂	河本 治彦
●フルート	大坂かおり	木村 純一	木村眞諭紀	佐藤 洋行
○オーボエ	深町 和良	二村 直子	本間 広樹	
●クラリネット	一瀬 直美	時田 雄	半藤 嗣人	
○バスーン	伊吹 直子	遠藤由紀子	大矢 哲雄	金坂 哲
●ホルン	木下 泰斗 林田 朋子	近藤 利昭 藤井 茂司	潮見 恵子 山内 正晴	嶋村 恒夫
○トランペット	酒井 崇行	柴田奈穂美	吹田 容子	西岡 宏
●トロンボーン	上田 浩平	坂田 圭	佐野 義人	藪崎 裕至
○チューバ	渡辺 鉄雅			
●打楽器	大澤 香奈	都筑 裕	春田美穂子	和田 英恵
○ハープ	藤田沙弥子			

リヒャルト・ワーグナー Richard Wagner

生没年 1813-1883

出身地 ドイツ



楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より第1幕前奏曲

この作品は、ワーグナーが手掛けた唯一の喜劇です。ワーグナーはオペラの題材として神話を取り上げることが多かったのですが、この曲は、ドイツ中世に実在した親方歌手、マイスタージンガーたちの生活を題材にしています。またこの作品は、芸術家に対する社会、芸術に対する技能、老年層の要求に対する新しいものに眼を向ける若年層の欲求などのテーマの対立といった、ワーグナーの芸術理念を示したものとしても注目されます。物語は彼らの歌合戦と恋の鞘当てを中心に描かれていき、社会に愛される芸術家の姿が浮かび上がってきます。これは、少し前に書かれた「トリスタンとイゾルデ」が男女の愛欲の心理を描きながら、希望を失った挫折で終わっているのと好対照となっています。

この前奏曲はハッピーエンドで終わるこの劇の華やかで勇壮な雰囲気をしていなく表したものとして、今日でも儀典的に演奏されることが多いものです。

明るく力強い「親方のテーマ」の旋律が最強奏で華やかに始まり、バイオリンで「愛のテーマ」が美しく演奏された後、管楽器によるファンファーレ風の「親方歌手の行進」へ。その後はこの三つのテーマが中心になって発展して曲を盛り上げ、最後には再び「親方歌手の行進」がいつそう重厚に演奏されます。

1813年ライプチヒに生まれ、1883年ヴェニスで客死。幼い頃から特別に楽才を現したこともなく、ピアノの稽古も困難を感じてやめてしまった。その代わりに詩作に没頭し、ウェーバー、ベートーヴェンの曲が契機となって、作曲家になろうと意を固めた。作曲を始めて1833年には各1曲の交響曲と序曲を上演することが出来た。その後各地で指揮者を歴任し、1842年ドレスデンに帰ったが、1848年の革命後スイスに亡命、1861年ルードヴィヒ2世の親交を得てミュンヘンに戻った。リストの娘コジマと再婚後、1871年からバイロイトに転住して、バイロイト音楽祭の大業を完成した。交響曲音楽は、ベートーヴェンによって、もはや発達の余地なきまでに完成したことをみたワーグナーは、詩と音楽と劇の融合に生涯をささげて、彼の「楽劇」を創始完成した。彼の見解によれば従来の「歌劇」は全て音楽そのものが目的であって、音楽が詩の表現手段となるものではなかった。したがって詩や劇はまったく犠牲にされねばならなかった。しかし「楽劇」では、詩と音楽が完全に融合せねばならない。ただその融合のためにのみ、詩も音楽もある程度相互の犠牲が許されるというのである。



2/5(土)

オーケストラ練習

(市川市文化会館大ホール)

An die Freude

Text: Friedrich Schiller

Merlodie: Ludwig van Beethoven

Beethoven

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen, und freudenvollere.

Schiller

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium!
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum!
Deine Zauber binden wieder,
was die Mode streng geteilt,
alle Menschen werden Brüder,
wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen,
eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele
sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
weinend sich aus diesem Bund.

Freude trinken alle Wesen
an den Brüsten der Natur,
alle Guten, alle Bösen
folgen ihrer Rosenspur,
Küsse gab sie uns und Reben,
einen Freund, geprüft im Tod,
Wollust ward dem Wurm gegeben,
und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen
durch des Himmels prächt'gen Plan,
laufet, Brüder, eure Bahn,
freudig, wie ein Held zum Siegen!

Seid umschlungen, Millionen!
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! über'm Sternenzelt
muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt!
Über Sternen muß er wohnen.

ベートーヴェン

おお、友よ、この調べではない！
もっと快い、歓びにみちた調べを
歌いはじめよう。

シラー

歓喜、美しき神々の火花、
樂園の乙女！
われらみな火の酒に酔い
天なる汝^{おんみ}の聖殿に踏み入る！
世の習わしは厳しくわけ隔つるも、
汝^なが魔力が再び結びつける。
汝^ながやさしき羽交^{はがい}の下^{もと}に憩わば、
すべての人人は兄弟となる。

躍動する生命力をわがものとなし得た者は、
ひとりの友の友とならん。
ひとりの気高き女性をかち得た者は、
和して歓呼の声を挙げよ！
しかり、たとえ一つの魂とて
この地上にて汝^ながものと名づけるを得んや！
そをかち得ざりし者は、
ひそかに涙ながら、われらの集いより去れ。

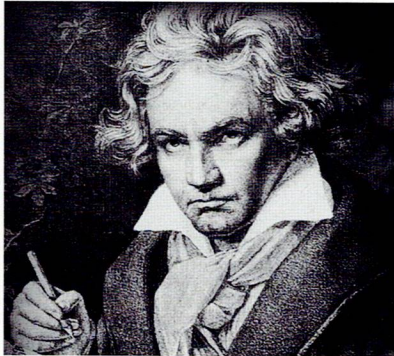
生きとし生ける者は、歓喜を
自然の乳房より飲む。
善きも、悪きもおしなべて
薔薇の怪を辿る。
それはまた、われらに接吻^{くちづけ}と葡萄の蔓と、
死の試練を経た友をあたえた。
虫けらにも快樂があたえられ、
天使ケルビムは、神のみ前に立つ。

喜びよ、汝^なれたちの太陽が大空を駆るが如く、
壮麗なる天の軌道をわたるが如く、
駆けよ、兄弟よ、おんみ^{おんみ}らの軌道を、
喜びにみち、勝利に進む英雄の如く！

百万の人人よ、わが抱擁を受けよ！
この接吻^{くちづけ}を、全世界に！
兄弟よ、星の天蓋の上に
いとしき父はいません。

汝^{おんみ}らひれ伏すや？百万の人人よ、
創造主を予感するや？世界の人人よ、
星の円蓋のかなたに、創造主^みを求めよう！
星たちの上に、創造主は住みたまわん。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン Ludwig van Beethoven



生没年 1770-1827 出身地 ドイツ ボン

交響曲第九番ニ短調 作品125「合唱付き」

この「第九番」は、第四楽章に、人声を加えていることで有名であるが、交響曲こうした人声を加えるということは、当時としては大冒険であった。しかし、ベートーヴェンは、この試みをみごとに成功させ、音楽史上不滅の傑作を生み出したのだった。

終楽章に用いられている歌詞は、ドイツの大詩人シラーの『歓喜に寄す』であるが、この詩が“愛と平和と喜び”をテーマとし、ヒューマニズムと同胞愛を讃えたものであることを忘れてはならない。ベートーヴェンは、この詩が発表された頃、まだ十代の終りであったが、この詩の思想に深く共鳴した彼は、それに曲をつけようと固く心に誓った。その宿題を果たしたのは、実に40年後の1824年(54歳)のことであった。死は、3年後に迫っていた。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)は、ドイツの作曲家。古典様式の大成したという位置づけであるが、ロマン派への橋渡しとも言われる。

ドイツ・ボンに生まれ、音楽家の家系であり小さい頃より、音楽教育を受け、鍵盤楽器等の楽器を学び、作曲もするようになる。演奏旅行などしながら、やがてヴァルトシュタインの助力で、1792年ウィーンへ出る。モーツァルトの死後1年であり、当時の第一人者・ハイドンに入門。やがていろいろな音楽家に教えを受け、その後も演奏に作曲にと活躍するようになる。

30歳頃から耳鳴りが消えず、苦悩する。1802年には、ウィーン・ハイリゲンシュタットで遺言までしたためた。しかし、その不幸にめげず、創作力は高揚、エロイカ交響曲、オペラ「レオノーレ」、運命、田園交響曲を書くにいたる。

9つの交響曲を残したが、第8番から第9番までの約10年間は、ピアノソナタや宗教曲を意欲的に書いていた。そして「ミサ・ソレムニス」の完成後、徐々に交響曲作曲へ傾倒、1年をかけて第9番を書く。最後の交響曲となった第9番の後は、弦楽四重奏曲を書き続けるものの、1827年、56歳で息をひきとる。

ベートーヴェンの作品は、オペラ、9つの交響曲など管弦楽曲がよく知られるが、室内楽曲やピアノ作品の数々が忘れられない。しかし、彼の晩年の作品でもある最後の交響曲が、この第9番である。

1822年、彼が52歳の時、ロンドンのフィルハーモニック・ソサエティに交響曲の作曲の依頼を受ける。しかし、それに至るまでに、新交響曲への構想はあったようである。そしてついに前例を見ない、合唱付の交響曲作曲に踏み切ったのである。

この4楽章の合唱は、シラーの詩「歓喜に寄す」をテキストにしており、曲名も「シラーの頌歌「歓喜に寄す」による終末合唱を持つ交響曲」が正式なもの。もともと、学生時代からこの詩には心寄せており、長年温めていた構想であったという。この人類愛と歓喜を歌い上げたシラーの頌歌を交響曲に取り入れた記念碑的作品である。

なお1824年の初演は、耳の聞こえないベートーヴェンが指揮(実際にはウムラウフ指揮、コンサートマスターのシュパンツィヒらが補佐をした)、演奏は不十分だったようであるが、作品の素晴らしさに大成功であったという。演奏が終わって熱狂し拍手をおくる聴衆に対して、ステージ上のベートーヴェンには拍手が聞こえない。それをアルト独唱のウンガーが作曲者の袖をひいて聴衆の方へ振り向かせたという。



2/6(日)

合唱練習

(市川市文化会館大ホール)